心構造疾患の先端治療に励み 北陸の医療を進展させたい

金沢大学医学部附属病院
循環器内科 病院臨床教授
坂田（さかた） 憲治（けんじ）氏

1997年 岩手医科大学 卒業
2004年 金沢大学 博士課程 医学系研究科 内科学第二 修了
1997年 金沢大学医学部附属病院 第二内科 研修医
2008年 スタンフォード大学 医学部循環器内科
2013年 金沢大学附属病院 循環器内科 助教
2015年 金沢大学附属病院 循環器内科 講師
2022年 金沢大学附属病院 循環器内科 病院臨床教授

かつて外科手術が唯一の治療法だった心構造疾患。最近は、低侵襲なカテーテル治療の進歩により多くの高齢者患者が救われています。弁膜症や冠動脈疾患治療のエキスパート・坂田憲治先生に、最新心疾患治療や北陸の医療を担う人材の育成について語っていただきます。

心疾患インターベーションの担い手として

私の専門は循環器内科で、なかでも冠動脈疾患や弁膜症などにカテーテルを使った低侵襲治療を行っています。具体的には、血栓などで狭窄や閉塞を来した冠動脈に対し、カテーテルを用いて内腔を広げたり、ステントを留置したりして血流を再開させます。血流が滞ってしまうと心筋が壊死し、狭心症や心筋梗塞を起こすリスクがあるため、治療は一分一秒を争います。迅速な診断を要する救急治療から心肺蘇生、慢性期まで一貫して当たるのが循環器内科医の二つの特徴です。

このような治療は「冠動脈インターベンション」とよばれ、カテーテル治療の主流でした。最近では、弁膜症や先天性心疾患などの心血管疾患へのカテーテル治療が拡充し、付随して「structural heart disease」という概念が生まれました。これを訳したのが「心構造疾患」です。たとえば、弁膜症は、弁の開き方が悪くなって血流が妨げられたり、弁の閉じ方が悪くなって血流が逆流したりする心臓疾患の総称です。弁膜症の主な原因は加齢による弁の変性であり、かつては開胸手術だけが治療法でした。高齢であるほど手術の適用は困難でしたが、今ではカテーテルによる低侵襲治療が行われ、高齢の患者さんでも治癒できるようになりました。弁膜症の代表的な疾患である大動脈弁狭窄症には、カテーテルで人工弁を血管内に留置する「TAVI」という治療法がありますが、石川県では私が最初に行いました。TAVIが実施可能な医療施設は、県内で本院を含め2カ所しかありません。

より多くの人々に役立つ、医療の知識と技術を得る

私が医者を志したのは、幼い頃は病気がちで入退院を繰り返し、たいへん重篤な病気に罹った経験があったからです。その後、救急外来に搬送される意識不明や心肺停止状態の人を助けられるような医師になりたいと思うようになり、医学部をめざしました。生死の境をさまよっていた患者さんが歩いて退院していく。そんなダイナミックな治療ができる心臓病の専門医にあこがれました。

実際、医療現場に立つようになると、何をやりたいかというモチベーションは変化していくものです。自分の人生にとって意義のあることは何なのか。もっと大勢の人のために役立つ医療を実践するにはどうすればよいのか。そうした思いから選んだのが、米国スタンフォード大学医学部への留学です。

冠動脈内を観察する技術は近年、著しく進み、超音波や近赤外線によって血管内の血栓やプラークなどの病変を詳細に見ることが可能になっています。的確な診断をつけられることで、どんな治療が最適か、判断しやすくなりました。これが冠動脈イメージングとよばれる医療技術です。米国に留学したのは、このイメージング技術を学び、新たな機器の開発や臨床研究につなげようと意図したからです。そして、私は新たな知識を得て、北陸へ持ち帰るため戻ってきました。東京の医療機関からのお誘いもありましたが、戻るのは故郷の金沢。北陸に貢献したいと決めていたのです。

地元に貢献できる、人材育成にも努める

目下、後輩の指導にも力を入れています。一人でできることには限界がありますから、自分が身に付けた技術や知識、経験を循環させたいと思っています。

いまだに若手医師は大都会志向が強く、北陸出身者でも東京に出てしまい、北陸全体を見ると医師は不足しています。ですから、北陸の医療の充実に力を尽くそうという、私と同じモチベーションを持った後輩を増やしたいと思っています。そのためには、若手たちに、北陸でも大都会に引けを取らない最新の医療や臨床研究ができることを示す必要があります。言い換えるなら、私は、現在の医療活動に一層頑張って、魅力的な医療がここにあるということを示さなくてはならない。それが使命だと考えています。東京のような大都会の人だけが最良の医療を享受するのではなく、日本中の人たちに、大都会と同等レベルの医療が担保されなくてはいけない。そう思っています。

熟練のカテーテル治療で多くの患者を救ってきた。まさに心構造疾患患者のいのちの砦